

地域からこころの医療を考える

News Letter vol.1 2020/12/1発行

～INTRODUCTION～

現代社会はストレス社会とも言われており、うつ病を筆頭に精神科領域の患者はますます増加しています。また、高齢化社会の進行による認知症患者の増加も頭の痛い問題です。厚生労働省の患者調査から推定されるわが国のうつ病の患者数は120万人弱であり、代表的な内科疾患である脂質異常症（148万人）、喘息（125万人）とほぼ同等の数値です。認知症の患者数は約600万人と推定されています。

わが国の精神科医療機関がこれらの患者さん全てをカバーすることは困難であり、初診までの待機時間の長さが問題になっています。精神科医療はプライマリーケアの先生方との連携なしには成り立たない状態にあるといえます。

自治医科大学精神医学講座では、この問題に正面から取り組み、地域における精神科医療のサポート体制の構築を目指します。

本ニュースレターは、日常臨床に有用な精神科医療の情報を発信していきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

自治医科大学精神医学講座 教授 須田史朗

近況報告

2020年、世界はコロナの渦に包まれました。街は人影がなく、雇用も変化し、全ての経済活動が停滞したかのように見えました。しかし、私達は転んでもただで起きてはいけません。人の心の変化、社会病理の変化を様々な角度から分析し、現在世界で起きていることの本質を見極めることは私達精神科医の使命であると考えています。皆様、是非連携してこの困難を乗り越えましょう。

そのような中で、少し明るい話があります。2021年1月より自治医科大学附属病院精神科に反復経頭蓋磁気刺激装置（repetitive Transcranial Magnetic Stimulation; rTMS）が導入されます。rTMSは2019年6月に保険収載された、治療抵抗性うつ病に対する新しい治療法です。コロナ禍で延期となっていたが、北関東では初の導入となります。大変おまたせいたしました。

該当する患者さん、ご希望の患者さんがおられましたらどうぞご紹介下さい。



自治医科大学附属病院5階西病棟にて今となっては難しいマスクなしでの集合写真。もちろんコロナ渦以前の撮影です。バックはサバンナです。

発行
地域からこころの医療を考える会
〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学 精神医学講座 内
TEL：0285-44-2111（代表）
Email：psychiat@jichi.ac.jp

編集委員
福田周一、山内芳樹
編集長
須田史朗



最近の精神疾患トピック



うつ病の治療について

うつ病の治療を行う場合は、日本うつ病学会が作成した「日本うつ病学会治療ガイドライン」が参考になります¹⁾。上述のガイドラインは日本うつ病学会のホームページ

(<http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/>) から閲覧可能であり、書籍化もされています。

同ガイドラインの具体的な方針を要約しますと、全例（軽症～重症）に患者背景や病態の理解、支持的療法、心理教育を行った上で、軽症例では新規抗うつ薬であるSSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）、SNRI（セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬）、あるいはNaSSA（ノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬）の投与か、認知行動療法を必要に応じて行うことが推奨されています。

中等～重症例では新規抗うつ薬に加えて三環系/非三環系抗うつ薬や電気けいれん療法が推奨されています。また精神科以外でも処方されることの多いベンゾジアゼピン系抗不安薬は漫然投与すべきではなく、中等～重症例に一時的かつ必要に応じて選択する、とされています。また、近年では前ページで紹介させていただきました反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）も選択肢となります。

うつ病は、ガイドラインに沿った治療を行っても、約半数以上の患者さんが初期治療に反応せず改善しないことがあります。その場合は専門医療機関への紹介が選択肢となります。専門医療機関への紹介が望ましい状況として以下が挙げられます²⁾。

- ①抗うつ薬を十分な期間、十分量を使用してもなかなか改善がみられない時
- ②抗うつ薬による副作用が目立つ時
- ③パーソナリティの問題が大きい時
- ④躁（軽躁）状態を認める場合
- ⑤幻覚妄想を認める場合
- ⑥希死念慮を認める場合

自治医科大学附属病院精神科では、プライマリ・ケアを担う先生方との密接な連携を心がけております。また令和元年5月から治療抵抗性うつ病専門外来も開設しております。該当する患者さんをご紹介いただけますと幸いです。

参考文献：

- 1) 日本うつ病学会：日本うつ病学会治療ガイドライン, 2016
- 2) 石郷岡純編：向精神薬総まとめ. 日本医事新報, 東京, pp31-32, 2014

自治医科大学附属病院精神科 受診案内

診療内容：統合失調症、うつ病、躁うつ病、パニック障害などの不安障害、摂食障害、器質性・症状性精神障害、心身症、てんかん、児童・思春期精神障害、老年期精神障害、在日外国人精神障害など
広範な精神科疾患を診察しています

診療日時：月曜～金曜 午前・午後（初診は午前、予約制）

特殊外来：もの忘れ外来（月・金）、治療抵抗性うつ病外来（金）

ポルトガル語外来（火）

いずれも完全予約制

* 急を要する診療依頼は自治医科大学附属病院病診連携室を通じてお申し込み下さい。

